

## 中期経営計画における経営目標・経営指標の進捗状況

法人名等		目標の内容・実績				
【法人名】  公益財団埼玉県芸術文化振興財団	目標	収支比率  毎年度50%以上  【算出方法】 事業にかかる経常費用に占める事業に係る経常収益の割合	有料公演チケット販売率  毎年度80%以上  【算出方法】 販売設定した席数に占める販売席数の割合	公演満足度  毎年度90%以上  【算出方法】 公演の鑑賞者に行ったアンケート結果において、回答数に占める、大変満足及びやや満足と回答した数の割合	施設利用率  ○ 埼玉会館 毎年度75%以上 ○ 彩の国さいたま芸術劇場 毎年度85%以上  【算出方法】 利用可能日数に占める利用日数の割合	施設利用満足度  ○ 埼玉会館 毎年度90%以上 ○ 彩の国さいたま芸術劇場 毎年度90%以上  【算出方法】 施設利用者に対して行ったアンケート結果において、回答数に占める、大変満足及びやや満足と回答した数の割合
	各年度の実績	【令和2年度実績】 23.4% 【令和3年度実績】 76.9% 【令和4年度実績】 70.9% 【令和5年度実績】 68.2% 【令和6年度実績】 64.3%	【令和2年度実績】 72.1% 【令和3年度実績】 82.5% 【令和4年度実績】 87.5% 【令和5年度実績】 82.0% 【令和6年度実績】 89.8%	【令和2年度実績】 98.0% 【令和3年度実績】 97.5% 【令和4年度実績】 97.2% 【令和5年度実績】 98.2% 【令和6年度実績】 97.2%	【令和2年度実績】 埼玉会館 57.0% 彩の国さいたま芸術劇場 63.2% 【令和3年度実績】 埼玉会館 64.5% 彩の国さいたま芸術劇場 82.0% 【令和4年度実績】 埼玉会館 73.6% 彩の国さいたま芸術劇場 84.5% 【令和5年度実績】 埼玉会館 78.8% 彩の国さいたま芸術劇場 76.6%※ 【令和6年度実績】 埼玉会館 76.3% 彩の国さいたま芸術劇場 84.4% ※芸術劇場は令和6年2月まで休館のため、令和6年3月のみの実績	【令和2年度実績】 埼玉会館 95.1% 彩の国さいたま芸術劇場 96.2% 【令和3年度実績】 埼玉会館 99.5% 彩の国さいたま芸術劇場 97.4% 【令和4年度実績】 埼玉会館 99.6% 彩の国さいたま芸術劇場 96.8% 【令和5年度実績】 埼玉会館 97.6% 彩の国さいたま芸術劇場 92.2%※ 【令和6年度実績】 埼玉会館 97.1% 彩の国さいたま芸術劇場 96.2% ※芸術劇場は令和6年2月まで休館のため、令和6年3月のみの実績
	法人による自己評価	令和6年度は、舞台芸術作品の提供等に関する事業として、「彩の国シェイクスピアシリーズ2nd vol.1『ハムレット』」、「埼玉回遊の宵」など、56事業126公演を実施した。 収支比率については、1事業5公演が中止となったが、目標値を達成することができた。 引き続き、経費削減と限られた予算で効果を出す工夫を施し、高い芸術性と収支比率のバランスを図っていく。	令和6年度は、彩の国シェイクスピアシリーズ2nd Vol.1『ハムレット』が98.2%、彩の国さいたま寄席 四季彩亭が95.2%、NHK交響楽団による公演が95.2%と堅調であったことをはじめ、多くの公演で高い販売率となり、目標を達成することができた。 引き続き、営業や広報活動の充実等によりチケット販売を手掛けていく。	当財団は、彩の国さいたま芸術劇場では「創造する劇場」の理念のもと、世界トップレベルの芸術作品を創造、発信、提供し、埼玉会館では、質の高い音楽作品を中心に事業を実施している。 令和6年度の実施公演においては、目標を達成するとともに、高い数値を維持することができた。 今後も、多彩で質の高い芸術作品の提供に努めていく。	埼玉会館は、昨年度に続き目標を達成することができたが、芸術劇場は、令和6年2月の再開直後の年度当初の利用率が伸び悩み、目標値を下回った。 各施設（ホール、稽古場、練習室、会議室、展示室等）の、抽選で外れた利用希望者への代替日の斡旋やキャンセル情報の提供、X、InstagramなどSNSを活用した情報発信を展開し利用促進を図っていく。	埼玉会館及び彩の国さいたま芸術劇場では、施設利用者のアンケート結果等も踏まえ、サービスの向上に努め、いずれの施設ともに目標値を達成することができた。 引き続き、利用者サービスの向上に取り組んでまいりたい。  ○令和6年度の利用者サービスの向上事例（共通） ・障がい者等向けの鑑賞（観劇）サポートに関する情報を一元的に発信するページを財団HPに新たに作成、公開した。 ・補聴援助システムや補助犬同伴など、事前申込が必要なサポートについてWEBフォームから申し込めるようにした。 （芸術劇場） ・ホール内で筆談が出来るよう電子メモパッドを導入した。 （埼玉会館） ・大ホールのホワイエ倉庫内に、お客様が机などの備品を収納する際、転倒しないようにラッシングベルトを導入した。 ・ホール棟の上下階にLANのトンネル回線を用意した。これにより、全館利用等の大掛かりなイベントなどでLANケーブルを敷設する量が圧倒的に減少した。